

## 短 報

## キバナオトメアゼナ小笠原に帰化 (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: *Bacopa procumbens* (Mill.) Greenm. Naturalized in the Bonin Islands

1980年頃、小笠原在住の延島冬生氏が父島で、ゴマノハグサ科のミゾホオズキに似た、黄色い花の咲く草を採集している。標本があまりよくなかったのものでそのままにしていたが、1998年に邑田 仁氏をとおして延島氏の採集した標本を再び入手したのでここに報告する(図1)。これはウキアゼナと同じオトメアゼナ属のもので、*Bacopa procumbens* (Mill.) Greenm. である。熱帯アメリカ原産で、ミクロネシア、マレーシア、インドなど東南

アジアの熱帯に広く帰化している。小笠原のものは以前駐留していたアメリカ軍が物資と共にグアム島からもたらしたのではないかと思う。渡辺清彦氏(1969)はこれにアメリカシソクサの和名を付けている。しかしシソクサ属とはなんの関係もないので、キバナオトメアゼナの和名を新称したい。

***Bacopa procumbens* (Miller) Greenm. in Field Columb. Mus. Bot. ser. 2: 261 (1907); Backer & Backhuizen, Fl. Java 2: 507 (1965); B.**

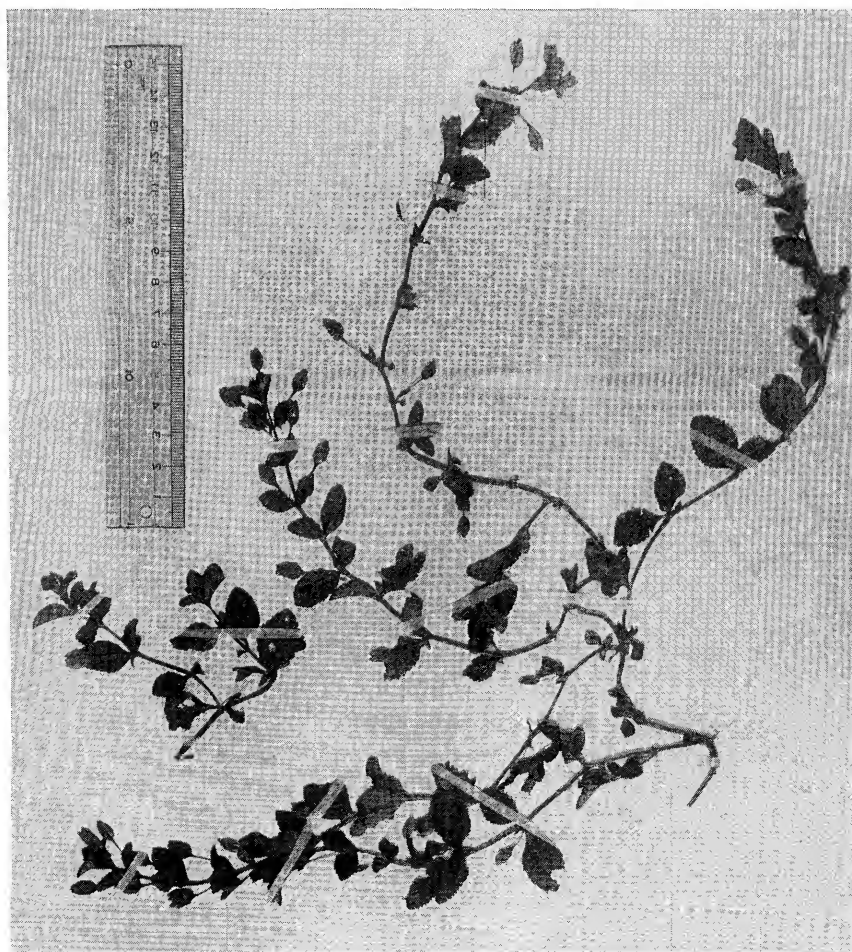


Fig. 1. *Bacopa procumbens* (Miller) Greenm. from the Bonin Islands.

C. Stone in *Micronesica* 6: 523 (1970)——  
*Bacopa dianthera* (SW.) Descole & Borsini:  
Corner & Watanabe, *Ill. Guide Trop. Pl.*: 797,  
fig. (1969).

Hab. Isls. Bonin, Chichizima, Okumura (F.

Nobeshima, March 30, 1998, TI).

This species is a newly naturalized plant in  
the Bonin Islands.

(東京都中野区 [redacted])

## 新帰化植物、オオヤナギアザミ (新称) 福島県いわき市から見つかる (門田裕一)

Yuichi KADOTA: *Cirsium hupehense* Pamp. Newly Naturalized in Iwaki, Central Japan

1997年11月、福島県いわき市で、アザミ  
属ヤナギアザミ節 *Cirsium* sect. *Spanioptilon*  
(Less.) C. Shih に所属する植物が見つかった  
(Fig. 1, A-D). この植物は頭花が大型で直立  
して開花し (Fig. 1, B), 総苞片が9列, 内総  
苞片および中総苞片の付属体が扇状に広がっ  
て大きく (Fig. 1, C), また高さが2 m と全  
体的に大型である点でヤナギアザミとは異  
なっている. 検討の結果, この植物は *Cirsium*  
*hupehense* Pamp. であることが明らかとなっ  
た. *Cirsium hupehense* は中国原産の植物で,  
次のような経緯で福島県いわき市に帰化した  
かあるいは帰化しつつあるものと考えられ  
る. この植物はこれまで日本には知られてお  
らず, ヤナギアザミに似て大型であるところ  
から, オオヤナギアザミと新称する.

日本産アザミ属植物の分類学的研究の一  
環として, 日本各地で現地調査を行うととも  
に, 現地に在住する研究者に調査への協力を  
依頼してきた. そのような呼びかけに答えて  
現地調査を実施していただいた方々の中の,  
いわき市の深澤榮子氏と紺野七美子氏, 谷平  
雅子氏がいわき市川前町小久田 (おぎゅう  
だ) 林道でオオヤナギアザミを発見された.  
1997年11月に発見されて以来1998年10月  
までの約1年間, 深澤氏らによって調査が実  
施されてきたが, 結局最初の発見地である小  
久田林道でしか見いだすことができなかった.  
しかもこれまでに発見されたのは最初の  
1個体のみである. さらにこの1個体は染色  
体観察と系統保存のために掘り取ったので,  
現地にはもう存在しない可能性もある. 掘り  
取った個体は草刈りのため上部が失われてお  
り, 未開花の状態であった. しかし, 1997年  
にはこの個体は稔性があると思われる充実し

た瘦果をつけていたので, この個体のほかにも  
自生している可能性が高い.

オオヤナギアザミはいわき市川前町・小久  
田林道の側溝に生育していた. この林道は東  
京電力いわき営業所が管轄する林道で, 1995  
年に完成されたものである. 林道の法面には  
コマツナギなどが生育しているが, これは同  
年に行われた外国産種子の吹き付けによるも  
のであることが分かっている. 吹き付けに用  
いられた種子を輸入した業者によると, この  
種子は中国・北京近郊から採取されたもので  
あるという. 問題のオオヤナギアザミの瘦果  
はこの吹き付け用の種子の中に混入していた  
可能性が高い. このことは, 同じ林道沿いに  
ヒナヒゴタイ *Saussurea japonica* が採集され  
ていることから裏付けられると考えられ  
る. ヒナヒゴタイは日本では九州にしか知ら  
れていないが, 中国では東北地方から華南ま  
で広く分布している (中国高等植物図鑑第4  
冊, 科学出版社, 北京, 1975).

1997年11月に採集された個体, E.  
Fukazawa 97005 (TNS) は高さ2 m を越えて  
いた. 1998年10月に掘り取った根はヤナギ  
アザミ節に特徴的な直根で (Fig. 1, D), 長さ  
20 cm, 最も太い箇所直径2 cm に達してい  
た. 吹き付け用の種子の中にアザミの根が混  
入することは考えにくいので, 1995年に吹き  
付けられてから3年間で, 茎の高さ2 m, 根  
の長さ20 cm, 太さ2 cm に生育を遂げたこと  
になる. これまでの状況証拠から, いわき市  
のオオヤナギアザミは帰化植物である可能性  
が極めて高いため, 帰化植物の定着と成長の  
速さの記録としてここに報告しておきたい.

オオヤナギアザミの染色体数は  $2n = 28$   
(Fig. 2) で, ヤナギアザミ *C. chinense* Gardn.